

## 令和5年度 自己点検・自己評価・学校間評価

※評価指標 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

### I 教育理念・目標

評価項目	評価
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特徴が明確になっているか)	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4

### II 学校運営

評価項目	評価
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### III 教育活動

評価項目	評価
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4

3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	4
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	4

#### IV 学修成果

評価項目	評価
1. 就職率の向上が図られているか	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	4
3. 退学率の低減が図られているか	4
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3

## V 学生支援

評価項目	評価
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	4
7. 保護者と適切に連携しているか	4
8. 卒業生への支援体制はあるか	3
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4

## VI 教育環境

評価項目	評価
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3. 防災に対する体制は整備されているか	4

## VII 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	4
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4

3. 学納金は妥当なものとなっているか	4
---------------------	---

## VIII 財務

評価項目	評価
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4

## IX 法令等の遵守

評価項目	評価
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4. 自己評価結果を公開しているか	4
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	4

## X 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

## XI 国際交流

項目	評価
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2

2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	2
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2

#### ○学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

##### 1. 看護師に求められる看護実践能力を育成するための教育力の向上

###### 1) 学生のコミュニケーション能力向上を目指した教育的関わり

- ・講義では、シミュレーション学習やグループワークを取り入れ、看護実践能力の向上と共に、コミュニケーション能力の向上を図った。自分の思考を整理したうえで言語化し、相手に伝える能力向上に向けた取り組みを実践した。
- ・3年次の「看護研究演習」の発表会では、3年生は実習での経験を明文化・言語化し、論理的に相手に伝える機会を得た。また発表までの論文作成においても担当教員とのコミュニケーションを密にはかった。
- ・臨地実習は、おおよそ計画通り進められた。学生たちは、担当患者とのコミュニケーションを段階的にはかり、必要な援助を実践していた。また、実習指導者との関わりを通じ、報告・連絡・相談の重要性を実感した。
- ・課外活動の「看護を語る会」では、1・3年生混合の小グループを編成し、実習で行った看護についてともに語り合った。3年生は1年生の実習経験を聴き自分たちなりのアドバイスを行い、1年生は3年生の実習経験を聴き質問しており、他学年とコミュニケーションを図る機会となった。
- ・日常から教員は学生とのコミュニケーションを積極的にはかり、学生が声をかけやすい環境づくりに努めた。

###### 2) 学生の主体的行動を推進する教育的関わり

- ・自治会活動や教科外活動では、学生主体の企画、方法に対し助言を行う程度にとどめた。運営は学生が主体的に行動できるよう支援した。
- ・ボランティア活動は、係を中心に企画を考え実施することができた。また、学校説明会や公開講座へのボランティア募集をしたところ、多くの参加を得られた。

###### 3) 看護技術力を促進するための教育的関わり

- ・1年生の技術習得はチューター制をとり、練習場面から技術チェックまで一貫した指導を心掛けた。
- ・2年生は共通カリキュラムで定められた実践内容を教授できるよう、臨床の協力を得ながら実施した。また技術到達度の達成に向け、マトリックスを活用し、漏れなく看護技術を実践できるよう努めた。成人看護学演習の救急救命場面の演習や、地域・在宅看護論の在宅における摘便など、領域ごとに臨床に即した技術を教授した。
- ・3年生は卒業前に技術練習の機会を設け技術力向上を目指したが、1レベルの技術の修得を優先して実施した。

###### 4) 授業内容・方法の充実

###### (1) 実習指導の質の担保：実習指導要綱の作成

- ・実習指導要綱の作成はできなかった。
- ・新カリキュラムの実習開始にあたり、疑問点は1回/週程度の共有時間をつくり、教員による指導の齟齬が無いように努めた。

###### (2) 授業の質の担保

- ・全教員の研究授業の実施を目指したが、業務都合により達成できなかった。
- ・実施した研究授業については、授業の構成や進め方、教育内容について授業者が参加者と振り返り、学生の興味・関心を促すための教育方法を考える機会となった。1名の教員は外部向けの授業を実施した。

(3) 看護師国家試験合格率 100%

- ・第 113 回看護師国家試験の合格率は 1 名不合格により、97.3%あった。
- ・3 年生は、定期的に個別面談の実施、夏季休業・冬季休業・自己学習期間には、学生の成績に応じ学習の場の提供や補習講義を実施した。また、精神的に支援するためのチューター制も取り入れたが、余り活用されなかった。

2. 高い倫理観と豊かな人間性の醸成

1) 倫理的視点を重視した教育的関わり

- ・個人情報取り扱いについては、講義や実習、日々の生活の中で指導を行い、意識づけていた。しかし、一部の学生においては、臨地実習や SNS 上での個人情報の管理について指導が必要なケースがあり、学生個々に合わせた対応、指導をした。

2) 学生の協働する力の強化

- ・3 年生は実習グループでの臨地実習を通して、他者の意見を尊重し、グループで円滑に実習を行うために協働していた。
- ・2 年生は、宣誓式や学生フォーラム、実習を経験し、仲間と協働し達成する力が強化された。
- ・1 年生は基礎看護技術教育においてチューター制を取り入れ、指導教員との日程調整やグループ内での協働学習を自主的に進めていた。基礎看護学実習 I においても仲間と協力して取り組んでいた。

3) 学生の創造力を伸ばす

- ・自治会活動では、看護の日とクリスマス会のイベントとしてハンドベルの演奏を企画し、運営を主体的に行った。
- ・卒業を祝う会では、感謝の気持ちをどのように伝えるかを学生が自ら計画し実施した。

3. 教育体制の充実

1) 学生数確保

- ・令和 5 年度入学生は定員より上回った。
- ・令和 6 年度入学生は昨年度より減少した。募集活動を工夫し、実施する。

2) 勤務時間の適正化

(1) 休憩時間の適切な確保

- ・休憩時間は十分に確保できていないこともある。

(2) 超過勤務時間の削減

- ・業務が集中する時期は多重課題となり、超過勤務になることもあった。

3) NHO 就職率 70%以上、県内就職率 90%以上

- ・卒業生・就職者に対する NHO 就職率は 100%、卒業生・就職者に対する県内就職率は 94.6%であり、目標を上回ることができた。

4) 学生による卒業時カリキュラム評価全体平均 3.5 以上

- ・全体平均は 3.6 (昨年度 3.7) であり、2 項目以外は全て 3.5 以上であった。
- ・最も低い項目が「わかりやすい授業が多い」、「課外活動に満足している」の 3.3 であった。講義方法や配布資料等への意見が散見された。
- ・「学校職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である」が 3.4 であった。